

ごん吉くんしポート〜南吉よもやま話〜

第22回 南吉と奥三河

新美南吉記念館では、企画展「南吉が歩いた奥三河」を1月9日まで開催しています。南吉と三河地方といえば、安城市など西三河との繋がりが知られていますが、実は新城市や設楽町など奥三河の各地にも足跡を残しています。

中学3年生の時の日記によると、原稿を募集していた新城市大海の「博物研究会」に童謡2編を投稿し、「親なし小鳥」が入選しています。原稿も掲載誌も残っていないので内容はわかりませんが、投稿魔だった当時の南吉にとつて、現在わかつている限りでは4作目の入選作です。創作に燃える文学少年にとつて大きな励みになったことでしょう。

それから9年後の昭和13年夏、安城高等女学校の教師になつていた南吉は、鳳来寺山麓の賢居院で行われた講習会に参加します。10日間の合宿中に鳳来寺山

の自然や風物に触れた南吉は、「鳳来寺村賢居院十日間」と題していくつもの俳句を詠んでいます。

配るよつに鳴いてすぎけり

仏法僧

金盞叩き来るなり仏法僧

鳳来寺山といえば、「ブツポウソウ（仏法僧）」と鳴くコノハズクで有名です。昭和10年に現在のNHK名古屋放送局が鳴き声の生中継を行ったことで全国的に知られるようになりました。きつと南吉も他の合宿参加者と一緒に夜ふけまで耳を澄ませていたのでしょうか。「金盞叩き…」の句は、コノハズクの甲高い鳴き声を上手く表現しています。

当時の鳳来寺は山麓まで鉄道が通っていました。昭和43年に廃線になった旧田口線です。この鉄道を終点の三河田口に向かつてさらに進むと清崎という駅がありました。そこから溪流沿いの道を3kmほど歩いた先が塩津温



旧田口線跡の廃駅（三河大草駅）

泉です。南吉はここを舞台に未完の小説「山の中」を書いていました。近年、設楽町奥三河郷土館の調査で、小説に登場する田口線の列車や沿線風景、温泉までの道筋、温泉場の様子が驚くほど実際に近く描写されていることがわかりました。おそらく南吉は、実際に塩津温泉を訪れていたのでしょう。

新東名高速道路の開通で知多半島からのアクセスもよくなりました。次の週末には、南吉の作品を片手に秋の奥三河を訪れてみてはいかがでしょうか？



はんだ市報は、パソコンやスマホで読み方いろいろ

マチイロ

スマホで「はんだ市報」が簡単に読めます。専用のアプリをダウンロードして、簡単な個人設定をするだけで、すぐに読むことができます。

ご利用方法

「マチイロ」のダウンロード（無料）

- Androidの場合
アンドロイド
グーグル プレイ
Google Playから「マチイロ」と検索
- iPhoneの場合
アップ ストア
APP Storeから「マチイロ」と検索



「QRコード」からも接続できます。

マイ広報紙

ユーザー登録をすると、「はんだ市報」の読みたい記事（子育て、健康など）を選んで読むことができます。

ご利用方法

インターネットで
マイ広報紙と検索（無料）

※市報発行日から公開まで日数がかかる場合があります。



「QRコード」からも接続できます。

※アプリ内に広告が表示されますが、その内容に市は一切責任を負いません。

※利用時のパケット通信料や回線使用料は利用者の負担となります。

【問合わせ】企画課 ☎84-0603